

一人ひとりの笑顔のために ～キョウメーションケア実施2年間の成果とこれから～

堤 英哲

医療法人みずほ会 看護小規模多機能ホームあさくら

【目的】

私たちは、平成29年より、利用者様の思いや願いを実現するために、キョウメーションケアの考え方を取り入れ支援を行ってきました。そして、平成31年度よりICT導入(KCIS)の検討開始。デモ機を導入し、事例に取り組みました。施設での導入前の成果に加え、KCISの効果により、根拠ある支援方法の構築と支援提供を目指しました。その成果をご報告します。

【KCIS デモ機を使用しての取り組み対象者】

- A氏、92歳、女性、要介護4
- 診断名 アルツハイマー型認知症、高血圧症、褥瘡Ⅳ度
- 処方薬：タケロンOD錠、ダイアート錠、ロナセン錠、マグミット錠、セロクエル錠、レンドルミン錠
- 日常生活自立度：B2
- 認知症高齢者の日常生活自立度：Ⅳ
- 生活場所：サービス付き高齢者向け住宅（ケアビレッジあさくら）
- 家族からの希望：本当の自宅に戻ることは困難ですが、出生地である高知市B市のC地区で生活ができています。ここが母の終の棲家となれば良いと思います。起きている時間でも、その場で寝ているように感じる事があります。認知症になる前のように皆さんと話したり、遊んでいる姿を多く見たいです。

【今回の報告内容】

- ①平成29年からの2年間のキョウメーションケアを取り入れた成果報告
- ②KCIS デモ機を使用しての事例の取り組み。（取り組み方法と成果）
 - ・キョウメーションケア10か条の確認、A氏への関わり方の確認と再アセスメント。
 - ・A氏の支援方法の統一
 - ・KCIS記録ソフトを使用し、支援内容の記録・情報共有（取り組み期間3か月）
（通いサービス時の活動量の把握、睡眠時間の把握、体調面の把握、通いや住まいでの行動や表情の変化）
- ③KCIS導入後の構想

【倫理的配慮】

今回の事例発表をさせて頂くことを説明し、個人の氏名は匿名であることを説明し承諾を得た。ご本人様、その他の利用者様が特定できる画像についてはすべて使用同意を得た。

【結果】

- ①KCIS記録ソフト導入前の2年間の成果として、チームでアセスメントする力とキョウメーションケア10か条の視点を考えながらのコミュニケーション力、接遇力に個別ケアやあきらめないケアを考える事ができる施設となった。
- ②記録ソフト導入により、A氏の細かい体調、行動把握、睡眠状態の把握を行う事で睡眠薬や抗精神薬の服用日が少なくなった。また、記録の根拠によりA氏の施設活動での興味やBPSDによる行動を減少する事ができた。

【考察】

自事業所ではこれまで3年間、「1人ひとりの笑顔のために」をテーマにさまざまな取り組みを行ってきました。キョウメーションケアを取り入れ、利用者様の状態や表情の変化を目の当たりにして来ました。利用者や家族の思いや希望を叶えるためには、BPSD改善や職員のコミュニケーション力や接遇の大事さに加え、更にチームのアセスメント力、観察力が必要である事が実践により再認識できました。これまで3年間の成果は、看護小規模多機能ホームあさくらの職場環境、チーム力があつたからこそだと思います。これからも利用者様の笑顔を追求していきます。